

情報空知

発行：空知教職員組合
 岩見沢市5条西12丁目1-9 電・Fax：0126-24-9419
 E-mail：sorakyou@rose.plala.or.jp

つながろう・学ぼう・語ろう・踏み出そう

2016年度空知合同研究大会

十月二日(日)二〇一六年度空知合同教育研究大会が、奈井江町公民館で開催されました。

午前は「社会力育てが教育と社会を救う」という演題で、前美浦村教育長 門脇厚司氏の講演。午後からは、「地域の子どもたちの今を考える」「学校内の子どもたちの今を考える」「障害をもった子どもたちの今を考える」3つの分科会に分かれて、討議を深めました。

社会力育てが教育と社会を救う、教育講演に七〇名以上の参加

門脇先生は、はじめに社会力とは、「人と人がつながって社会をつくる力」であると、「昭和二〇年代の子どものように野外で遊び呆けた時代・子どもが大人の仕事の手伝いをした時代を教育を考える上での原点である。」と語られました。美浦村では、社会力を育てることを教育政策の重点課題とし、「美浦村は、学力向上競争から、離脱します。」と宣言し、先生方には、「教える立場の者自身が楽しんで授業をして欲しい。」と教師の自主性を尊重、地域では、大人と子どもがいろいろな場面で力を合わせる活動に取り組んだそうです。その結果、子どもの学習に対する意欲が増し、学力も向上しているとのこと。

神奈川県藤沢市が一九六五年から五年毎に実施している中学3年生を対象にした意識調査によると「もっと勉強をしたい」との回答が調査開始当初の五〇%代から二〇%代と後退しており、学校に行けば行くほど、勉強に対する意欲が低下し、同時に自分に対する自信の低下につながっている結果を示しているとし、そのことが、いじめの発生や他者への関心

のない自己中心的としてあらわれている今の子ども達の現状を指摘しました。

(・・・以下、講演内容を要約すると・・・)人間は本来利他的(利己的ではない)な性格を持っている。特に、日本人は、「他人」という漢字を「ひと」と読み感覚を持つ人間、つまり、他者との関わりを大切に考えられる人間である。(他人ひとひとという言葉の感覚は外国にはないとのこと)言わば、もともと社会力を兼ね備えていた国民であると言える。ところが、明治の学制発布以来、教育の場で、人間をセレクトしてきた。そして、それが教師の仕事として現在の学力テスト体制におよび、格差社会を助長していると言える。

学力テスト体制のもとでの今の教育に対して異議を感じながら、先生方が何もいえないとしたら、その姿勢こそが実質的に格差社会を肯定し、その中で苦しんでいる教える子を見捨てていることになる。

そして、最後に改めて「社会力の育成こそ格差社会を乗り越え、平等な社会をつくる力になる。」ということを訴えて講演を締めました。



「学習で培った能力を社会や他人(ひと)のために活かそうと考える子どもが生まれる教育こそ真の教育。」と説く門脇先生

合同教研成功のために尽力いただいた各組織・団体

今教研では、次の組織・団体が実行委員会に参加していただき、尽力されました。

深川新婦人の会・滝川新婦人の会・美唄新婦人の会・岩見沢新婦人の会・夕張新婦人の会・深川労連・滝川労連・美唄労連・砂川労連・岩見沢労連・長沼労連・栗山由仁労連・夕張労連・道退教空知支部・高退教空知支部・高教組南北支部・空知教組

特に砂川労連には、常に複数で実行委員会に参加いただき、貴重なご意見をいただいた上、合研チラシの地域配布も積極的に行ってくださいました。

深川・滝川・岩見沢の新婦人には、最後の最後まで講演の参加者を募っていただき、最終的には、当初の予定参加者を上回る方の参加をいただきました。

道退教・高退教の方々には、すでに入っていた予定をキャンセルして、講演に駆けつけて下さった方もいらっしゃいました。道退教の吉田さん・高退教の水田さんには、開会前の歌声指導を引き受けていただき、大会の雰囲気盛り上げていただきました。

お陰をもちまして、今教研大会は近年の中では、参加者数や内容面でも成果の多い大会となりました。

来年もご協力のほど、よろしくお願います。



11月5日・6日は2016全道合研

●教育の夕べ【5日 16:30~18:30】記念シンポジウム

「一人ひとりが大切にされる社会 ~子育て・教育・暮らしに息づく憲法を考える~」



明日の自由を守る若手弁護士の会 (あすわか) 共同代表 黒澤 いつき さん(東北大学法科大学院卒、2009年弁護士登録。出産を機に「しばらくママ業に専念してみよう」と弁護士登録抹消。2013年1月に「明日の自由を守る若手弁護士の会」設立、共同代表。)他シンポジスト3名

合研にむけて開催した教育懇談会

9月19日 「教育“なんでも”集會 in 北空知」滝川市 参加人数 22名

9月25日 「子育て・教育をみんなで語り合おう」夕張市 参加人数15名

『1990年代から21世紀の現在、国民の生活と暮らしは、グローバル競争経済の中で、産業構造の変容、地域間格差の拡大、非正規労働の広がりなどの中で、厳しさをましています。特に、貧富の差の広がり、地域共同体あるいは家族の解体を招き、直接的に子どもの生活権や学習権を奪うことになっています。このことは、子どもを育てる視点を学校の中にだけ置くのではなく、広く地域社会にも広げ、より良く子どもが育つ環境づくりの必要性を迫っていると考えます。そういう意味では、今こそ「教育課題を地域全体で語り合う」活動が求められているともいえます。すで、滝川では「しゃべりば」という名で、定期的に教育懇談会を開催していますが、他の地域でもこれを期に教育懇談会を開催し、今の教育の課題を探るとともに、空知合研への参加や、これから年末に向けて繰り広げる教育署名運動への機運を盛り上げるものになればと考えます。』という主旨で、地域ごとの教育懇談会を開催しました。



滝川でおこなわれた教育懇談

空知北の教育集會は、全部で22人の参加でした。高教組は4~5人、空知教組は宮澤さんと僕との2人でした。民商の事務局長さんが来てくれていたり、終わり近くでしたが市議も来てくれました。今の学校現場が抱える問題を知ってもらうのにはいい集會になったと思います。(川村)

九月二十四日夕張市民研修センターにおいて、空知合同研究集會夕張実行委員会主催の教育懇談会が「子育て・教育をみんなで語り合おう」のテーマのもと開催されました。十五名の参加者は、おもに昨今の「子どもの学力問題」を中心に意見を交わし合いました。1960年代の全国学力検査は、過度な競争を招き、教育現場に多くの退廃を生みだしました。しかし、財界の要請による高度成長を支える良質の労働力の獲得という動機の不純さはあったものの、ある意味、子どもの学力向上を狙ったものであることは間違いなかったといえます。しかし、2007年から実施されている今の全国学力検査は、建前の上では、子どもの学力向上を謳いながら、それとは逆に、無益な競争と序列化を図ることにより、財界が作り出した格差社会を無批判に受け入れる盲従的な人間づくりの場に学校を変質させようとするものです。この懇談会では、教育とはひとりひとりの国民の能力を最大限にのばしうるものでなければならないという憲法の精神を改めて確認し、日本の競争原理による学力向上の施策を克服していかなければならないことを確かめ合いました。



夕張でおこなわれた教育懇談会

教育署名の取組み

9月24日(土)に長沼道の駅で教育署名を集めました。10:30に集合したのは、大島さん、鉦谷さん、そして私開屋の3名。

絶好の署名日和に恵まれ、道の駅にもお客さんがひっきりなしに訪れていました。署名も順調にはかどい、三人とも20名以上の署名を集め充実感たっぷり！大島さんも、1時間で20名集めた~とホクホク顔でした。いつになく通り過ぎる方々の反応が良く、//はダメなのに快く署名してくれる方が多かったです。

署名の中でのエピソードを三つ。

一つめ。私から声をかける前に、近づいて来てポスターを眺めてきた女性。「教育条件を良くしてほしいとお願いする署名です」と言っただけで、自分から署名をして下さいました。署名後にお礼を言うと「私も、教員ですから」と優しく告げて立ち去って行きました^^)

二つめ。署名をお願いするとさかさ「政党でやってるの?」と怪訝そうな顔で質問を浴びせてきた女性。「昨年は道議会の全会派、29名の道議会議員の方々に紹介議員になってもらっています」と答えたところ、「なら、するわ!」とさらさらと書いてくれました。ストリートに「鉦谷です」と答えると深みにはまっちゃうかなととっさに判断して紹介議員のことを話してみたら正解でした(^-^)

三つめ。喫煙スペースで、たばこを吸っているいかめしそうな顔をしている男性。ダメ元で声をかけたところ、すんないと署名を快諾。話してみると、子どものこと教育のこと、いろいろと自分の考えを聞かせてくれました。見た目判断しちゃいけないとあらためて反省した次第です(^-;)……署名の後は、道の駅2階のレストランに移動し、3人でゴージャスな昼食を食べました。(開屋)

